

た ま に 、 母 校 を 思 い 出 そ う

岡山白陵 忠高

同窓会報

発行：岡山白陵同窓会
〒709-0715 岡山県赤磐市勢力588
TEL:086-995-1255



第18号
平成24年12月25日



CONTENTS

ごあいさつ	1, 2
新校舎竣工	3
新校舎紹介	4, 5
校舎建替寄付金ご協力者ご芳名	6, 7
同窓会報告	8, 9
活躍する同窓生	10, 11
母校便り	11
編集後記	12



会 長

大津 正和

MASAKAZU OTSU

会長挨拶

昨年より建設工事が進められてきた、岡山白陵の新校舎がこの度完成し、8月28日には盛大な完成記念式典が挙行され、校舎としての利用が始まりました。以前の校舎の耐震強度不足対応から始まった、新校舎建設ですが、完成した新校舎は旧校舎より大きく立派な建物で、在校生たちの成長の場として相応しいものになっていると感じました。

同窓生の皆さまには、新校舎建設に関して寄付のお願いなど、多くのご協力をいただきました。新校舎には、同窓会から新校舎へ贈るのにふさわしいものは何かと考えた結果、岡山白陵の歴史を振り返り未来を目指してもらおうのを応援する記念品を贈呈する計画を進めております。

同窓生としては、自分たちが青春の一時期を過ごした、懐かしい校舎が無くなってしまったことには一抹の寂しさを覚えますが、在校生たちがより良い環境で成長する機会を得たこと、そして母校が絶えざる進化・発展を続けていることは喜ぶべきことです。

建設工事に伴って、運動場が使用できなかったため、昨年・今年と運動会が外部会場で挙行された影響で、例年運動会に合わせて開催してきた同窓生の集い（ホームカミングデー）が実施できず、同窓生の皆さまにはご不便をおかけしました。来年からは、また復活させたいと考えておりますので、その節には多数のご参加をお願いします。このような機会に、あるいは個人的にでも、母校を訪問されて、新校舎をはじめ発展を続ける岡山白陵をご覧になってはいかがでしょうか。

また、来年には、岡山白陵同窓会に東京支部が開設される予定です。やはり、東京を中心とした関東圏に、同窓会員が多数居住している現状に対応するためです。これを機会に、東京支部を中心に、関東圏での同窓会員相互の連絡やイベントを盛んにして、同窓会活動を強化していければと思います。関東圏にお住まいの会員の皆さまには、ご協力をお願いいたします。

新校舎の完成

校長挨拶

同窓会の皆様には常日ごろより、本校の教育にご理解いただき、物心ともにご支援いただいておりますこと、お礼申し上げます。また、この度は校舎、新築建替えに伴い、寄付金を募集しましたところ、昨今の経済的にも厳しい状況の中、母校のためにご協力をいただいておりますこと感謝申し上げます。

お陰をもちまして新校舎は完成し、2学期より生徒たちは新校舎で快適な学校生活をしております。新校舎使用に先立ち、8月25日には神事による校舎新築建替工事竣工式を行い、日を改め8月28日には岡山県議会議長内山登様、岡山県総務部総務学事課長福田勝彦様、赤磐市長井上稔朗様を始めとする多くのご来賓の方々にお越しいただき、新校舎完成記念式典を行いました。その際、お忙しい中、大津正和同窓会長にもご来賓としてお越しいただきました。

新校舎は鉄筋コンクリート造り5階建て、全室冷暖房完備、延べ床面積約7,200㎡で旧校舎の2倍の広さです。校舎の外観は渡り廊下で繋がる管理棟の外装とも調和するブラウン系のアースカラータイルを基調にし、上へと真っ直ぐに伸びる列柱をリズムカルに配置し、校舎の中央には本校の象徴ともなるべく時計塔を設えました。正面生徒昇降口は西洋古典様式を意識した重厚感のある自然石の外壁にモダンな金属パネルの庇をデザインしました。各教室の広さは従前より2割近く広くなり、教室の南側にはバルコニーを設え、日差しを和らげるとともに、生徒たちが心を休める空間ともしました。新校舎の一番の特徴は何と云っても幅5m、そして全長100mに及ぶ各階の廊下です。旧校舎の2倍以上の広さです。廊下を広くとした空間とすることによって防災上の効果はもとより、休憩時間や放課後に生徒たちが、ゆったりと集い、自由に過ごすことができるコモンスペースとして設えたところです。なお、新校舎は最新の建築基準法に基づく耐震基準を満たし、震度6強から7程度の大規模地震に対しても対応できるよう設計されています。

旧校舎の面影を多少なりとも残しながら、新たな意匠を凝らし、創立以来の伝統を生かした知的で力強く落ち着いた新校舎は眼下の清流吉井川や周囲の山々ともよく調和し、この熊山の地に新たな空間を作り出すことができたのではないかと感じているところです。

なお、1階中央コモンスペースには新校舎完成の記念として岡山県重要無形文化財保持者の吉本正氏に「飛翔」と題する備前焼のレリーフを作陶していただいております。

機会を見つけて、是非本校にお立ち寄りいただき、新校舎を見ていただくとともに、後輩たちを励ましていただければ、有難いことだと思っています。



校長
石原 元秀
MOTOHIDE ISHIHARA

副会長挨拶

今夏の同窓会役員会にて同窓会副会長を拝命致しました。うれしいことに本校卒業生が多方面で活躍されていると耳にすることが近年増えてきたと実感しています。微力ながら母校の更なる発展に寄与してまいりたい所存です。何卒宜しくお願い申し上げます。

さて、日本の今後の見通しですが決して明るいとは言えない状況です。厳しさは増すばかり、子供の将来どころか、自分の将来のことにまで不透明感が漂っています。我々の世代は幸いにも裕福に育てられ、教育においても私学で学ぶ機会を与えてもらいました。いま世間の父兄は、どの学校に子供を行かせるのが損か得か実にシビアな目で学校選択にあたるようになっています。

「縁尋機妙、多逢聖因」(えんじんきみょう たほうしょういん) 著名な陽明学者安岡正篤氏が良く使っていた言葉があります。人間はできるだけいい機会、いい場所、いい人、いい書物に会うことを考えなければならないという意味です。本校が今後も圧倒的な存在感を示し、発展を続けるには3年ないし6年は言うに及ばず、卒業生同士のつながりが永きに渡り、良い縁に会えた心から思える存在であることが大切であります。私自身、今春卒業25周年を迎え、多くの同級生と母校を訪れ、恩師とお会いする機会に恵まれ、その思いを強くした次第です。

卒業生皆様が健康に過ごされ、各期で同窓会の絆が卒業後歳を重ねるに深まるとともに「岡白愛」が醸成されることを祈念致しております。



副会長
永原 琢朗
TAKURO NAGAHARA

新校舎竣工

竣工式・神事 8月25日



新校舎完成記念式典 8月28日



引っ越し 8月29日



新校舎紹介

新校舎竣工に際して

～受け継ぐことの大切さ～



第4期生
大東 祐

既に取り壊された旧校舎の白く出っ張った平屋の部分は、僕らが通っていたところは「図書室」と呼ばれていた。

ちょうど30年前の3月、僕らの卒業式の後、故三木省吾園長は僕ら3年1組の生徒34名をこの図書室に集めた。

「おまえたちはこの学校で中学からの6年間を過ごした最初の卒業生だ。おまえたちは本当にいいクラスだった。しかし、なぜおまえたちの良さを後輩たちに伝えてくれなかったのか。本当に残念だ。」

園長はそう話され、落涙された。その1年3ヵ月後、園長は亡くなられた。

僕はあの校舎で、先生方や級友たちにどうしようもないくらい迷惑をかけ、助けられ、いろんな思い出をたくさんもらった。そうした人たちにいまだに詫言の言葉も感謝の思いも伝え切れずに生きている。そしていまでも母校を想うとき「なぜ後輩たちに伝えてくれなかったのか」という園長の言葉を思い出す。

僕はいま2人の大学生の息子と高校生の娘を持ち、父から引き継いだ小さな建設会社を営んでいる。わが子や将来会社を担ってくれる若い社員たちに何を伝えていくべきか、考える機会が多くなった。そして、痴呆症が徐々に進行していく父から何を受け継いでおくべきか、ということも。

新しい校舎で、多くの後輩たちがいろんなことを学び、笑い、涙するのだろう。将来を夢見たり、後悔したりするのだろう。竣工したばかりの校舎はまだ人工物の塊でしかないが、後輩たちがそこでそうした営みを繰り返すうちに本当の意味での「学び舎」となっていくに違いない。そして卒業し社会人になり、親となり、若い人たちを指導する立場になっても、その「学び舎」で得たものが、あるいは得ようとして得られなかったことが、人生の糧になるに違いない。

僕の「学び舎」は既に取り壊されてなくなってしまった。しかしいまでも見上げればあの坂道の上に建っている。緑の山を背負って建っている。踏切りを渡るとキンモクセイの香りが漂って来て、息を荒くしながら坂道を登って行くと大時計が見え、校舎中央の緑色の壁が見えてくる。

願わくば、後輩たちが故三木省吾園長の情熱を受け継ぎ、「学び舎」で得たものをさらにその後の後輩たちに伝えていってほしい。目を閉じれば級友たちの声や姿、ぬくもりまでが思い出せるような「学び舎」であってほしい。



岡白心臓破りの坂に設けられた新階段。



生徒玄関。新階段はここへと続く。
全校生徒がこの玄関から校舎に入ります。



広くなった廊下「COMMONスペース」
これからもっと学びの場となり憩いの場となることでしょう。



一階COMMONスペースに設置された備前焼レリーフ。備前焼作家、吉本正様による作品です。この名の通り「飛翔」せよ、岡白生！



変わらぬ趣のある、新憩いの広場。



新しい時計塔。
岡山白陵の新たな歴史を刻み始めています。



中庭の風景。



三木省吾先生の胸像も、学園道路脇に移設。
太陽の光を浴びて気持ちよさそう。



テニスコート側から見た風景。広めのバルコニーが
穏やかな日差しを運んでくれます。



生徒用の靴箱。全校生徒の靴箱が並ぶ様は壮観。
全校生徒1071名の靴がここに収まっています。

念願の(?)エレベーター。
(ただし使用できるのは先生方のみ)



校舎建替寄付金ご協力者ご芳名

校舎新築工事を支えてくださった皆様、本当にありがとうございます。



- 100口 福田(劉)有子 (11期)
- 20口 近藤宏也 (30期)
- 10口 吉島誠一郎 (9期)
- 前田秀昌 (10期)
- 安本明浩 (17期)
- 吉本(劉)安子 (17期)
- 5口 三木建次郎 (11期)
- 山本浩平 (26期)
- 山本啓介 (28期)
- 3口 日笠悌一 (4期)
- 金田(石原)邦恵 (10期)
- 岡山(尾崎)容子 (11期)
- 坂本信晶 (20期)
- 2口 平岡薫 (9期)
- 田水智子 (10期)
- 清水民夫 (11期)
- 津田健 (16期)
- 永田雄大 (23期)
- 池内寛子 (25期)

- 2口 中尾紗耶香 (28期)
- 林建一郎 (29期)
- 櫻井梓 (30期)
- 1口 藤田俊和 (3期)
- 秋田典宏 (3期)
- 植垣文夫 (4期)
- 浮田直樹 (4期)
- 以後有希夫 (6期)
- 鎌田真砂史 (9期)
- 河田祐子 (9期)
- 河原秀典 (10期)
- 徳田圭亮 (10期)
- 中谷浩樹 (10期)
- 藤原一夫 (10期)
- 江川武考 (11期)
- 亀山真典 (11期)
- 羽瀧繁 (11期)
- 若畑尚希 (12期)
- 彦坂玲子 (14期)

- 1口 前田剛 (14期)
- 生駄央 (17期)
- 石田隼人 (18期)
- 佐々井崇 (20期)
- 長谷川徳子 (22期)
- 西田知加 (23期)
- 水野慶太 (23期)
- 野田和代 (24期)
- 井上智敬 (25期)
- 羽田祥子 (25期)
- 岡田裕子 (26期)
- 岸野英之 (26期)
- 津島浩 (26期)
- 都藤隆彦 (26期)
- 西田江里 (26期)
- 松尾直昭 (26期)
- 守安志織 (26期)
- 井上弘章 (27期)
- 伊達慶一 (27期)

- 1口 吉本竹虎 (27期)
- 西田早希 (28期)
- 原尚史 (28期)
- 片山秀雄 (29期)
- 川上裕子 (29期)
- 原貴紀 (29期)
- 伊達直希 (30期)
- 小野和馬 (32期)
- 清田翔 (32期)
- 山本五郎 (32期)
- 山本雪乃 (32期)
- 岡優介 (33期)
- 長尾俊二郎 (33期)
- 中川由加里 (33期)
- 渡辺真子 (33期)
- 高田理史 (34期)
- 山内菜緒 (34期)
- 山本誠一郎 (34期)

旧職員でご寄付頂いた方

- | | | | |
|------|---------|----|---------|
| 5口 | 木村純一先生 | 1口 | 赤田進先生 |
| | 小野一郎先生 | | 北幹夫先生 |
| | 鷲田昭義先生 | | 横川仁美先生 |
| 3口 | 中島恒夫先生 | | 岸本貞女先生 |
| | 中野茂生先生 | | 戸取一之先生 |
| | 梅原治先生 | | 木良八州雄先生 |
| 2口 | 今井淳二先生 | | 岩井政俊先生 |
| | 羽原照夫先生 | | 藤田まち子先生 |
| | 村田三幸先生 | | 山本節雄先生 |
| | 澄谷博紀先生 | | 森正枝先生 |
| | 田村淳先生 | | 齋藤兆生先生 |
| 1.5口 | 岩佐三千雄先生 | | 藤川渡先生 |
| 1口 | 梶岡七大彦先生 | | 赤松初夫先生 |

※平成24年2月23日～11月末日現在で学校にご寄付を頂いた方のお名前を掲載させていただいております。

同窓会報告

岡山白陵高校同窓会卒業25周年の集い

さる4月14日岡山市岡山駅前の全日空ホテルカフェ“ウルバーノ”において岡山白陵9期生（一部8期生も含む）同窓会“岡山白陵高校同窓会卒業25周年の集い”を開催しました。ご来賓の先生方をはじめ多くの同窓生の参加をいただき、滞りなく盛会の内に無事終えることができました。午後7時より今回発起人である永原琢朗氏の挨拶に引きつづき、出席者の自己紹介、近況報告を行いました。さらに出席いただいた大森教頭、高橋教諭、志水教諭より現在の岡山白陵の状況並びに進学成績など詳細な説明があり、是非同窓生のご子息を入学させていたきたいというお話がありました。最後に同窓生から出席いただいた先生方3名に記念品（フォトアルバム）の贈呈がありました。



発起人：永原琢朗 会計：神崎 充、島田 純

同窓会で女子会しました！

30期生、岡山大学医学部5年
渡邊 彩子



岡山白陵を卒業し医学部に進んだ女子約20名で、2011年年末、小さな会を開きました。「他の高校では同期だけで集まる同窓会だけでなく、同窓生で学年・大学も関係なく集まっている！」という話を聞き、岡白にもそんな会あったらいいなと思い、それならばやってみよう！と、同級生・後輩たちに声をかけ、開催に至りました。学年も学校も違う（今回は2回目だったのですが、2011

年3月の第1回るときはもう卒業されてお医者さんになられた方も！)、けれど岡山白陵・医学部という共通点だけでこんなに熱い人たちが集まるなんて…。初めて会う人も多かったけれど、すぐに打ち解け、いろんな話ができる！母校って素敵だなと、改めて思いました。岡白時代の懐かしい話だけでなく、先輩から後輩へのアドバイス・大学で頑張っていること等々、いつもは会わないからこそ、それぞれが持っている熱い思いを話せたように思います。とても楽しかったし、大いに刺激を受けた私は「来年は、みんなみたいにがんばろう！」と、なんだか興奮して家に帰りました。お世話になった岡山白陵の方々に、少しでもそのような場を提供できたなら幸いです。今後もこの会を、先輩・後輩たちと続けていけたら…と思っています。次回開催日程は、まだ決まっていますが、興味のある方はFacebookにて、私にご連絡ください。活躍されておられる諸先輩方、また熱い後輩たちにお会いできること、楽しみにしています！

姉妹校 白陵中学高等学校との合同同窓会



去る7月7日、品川プリンスホテルにおいて、白陵高校と岡山白陵高校の合同同窓会が開催されました。これは姉妹校、白陵高校の同窓会東京支部の呼びかけで実現したものです。両校の卒業生約100名が参加し、母校からも教頭大森博幸先生と、白陵高校の同窓生でもある中学部長長野恭

也先生がご出席くださっての盛大な会となりました。主に関東圏で生活する卒業生が中心の会でしたが、久しぶりに顔を合わせた旧友と、あるいは初めて語らう先輩・後輩と、同じ白陵で過ごした者同士、両校の垣根を越えての心温まる時間を過ごすことができました。

8期同窓会

8期生
山本 道代



そもその始まりは春に開催された9期生の同窓会でした。最初、数人で飲もうという話があったところに、facebookで情報が広まり参加人数がどんどん増え同窓会になってしまったらしいのです。もともと参加予定だったのでそのまま9期生の同窓会に参加させていただきました。高校卒業以来会ってなくても、学年が一つ違っても結構顔も覚えていろいろ話もでき盛り上がった素敵な会でした。

8期もやろうよと、まず連絡ツールとしてメーリングリストを作り、準備は湯ノ口君や濱本君にお世話になり大阪で8月12日の日曜日に開催することになりました。会場のホテルグリーンプラザ大阪はやや分かりにくく、方向音痴ではないと自負する私も迷いながらやっとどり着いた程度でした。参加者の皆様、文明の利器に頼らず地図のみでスムーズに行けました？お盆だったこともあり、先生方の参加は残念ながら無かったのですが、約30名の仲間が集まりました。迷ったわりに早く着き、受付の周辺に居ると次から次へと懐かしい顔が現れて「おー」という歓声（喜びなのか驚きなのか？）が沸き起こっていました。開始時

刻の18時になるとそれぞれに席に着き、近況や高校時代の思い出を語り合いました。ほとんど話をしたことの無かった友人ともたくさん話ことができました。飲みすぎて正体を無くし集合写真から脱落の方が1名（名誉のために名前は伏せておきましょう、ちなみに職業は医者）いましたが、ほとんどは2次会のカラオケに行きました。歌うより話に花が咲きあつという間に2時間が過ぎお開きとなりました。8人ほどで次に移動し、適当に飲んで食べて深夜の大阪をホテルまで歩いて帰りました。途中までは一緒に歩く人が居たけど最後の数百メートルは一人になり、10分程がやたら長く感じられたけど怖いと思わなかったのは適度に酔いが回っていたからでしょうか。今回出席できなかった方、楽しいですよ、次回はぜひ来てくださいね。

活躍する同窓生

今回も様々な方面から多彩な方をお迎えして「活躍する卒業生」をお届けします。
今回は、増田智久さん(15期生)、竹内麻子さん(22期生)をご紹介します。

増田 智久 (15期生)

TOMOHISA MASUDA

母校への想い

15期生の増田智久です。岡山市で建設業・産業廃棄物処理業を営む傍ら、昨年から飲食業の事業展開も始めました。略歴ですが、徳島大学工学部建設工学科卒業後、大阪のゼネコンで3年間実務を経験した後に、父が経営する総合建設会社へ就職、現在に至ります。

高校へ入学当初は、漠然と有名大学へ進学することを目標にしておりましたが、学業に身が入らない時期を過ごし、高校1年の2学期には最下位レベルの成績になりました。そんな私でしたが、いつしか自営業の父に憧れを抱き、将来父を超える経営者になりたいと強く思うようになりました。



経営者という新たな目標を掲げ、大学受験の勉強にも身が入るようになり、なんとか希望する大学へ進学することができました。岡白生としては落ちこぼれていましたが、先生方のきめ細かいサポートのおかげで将来への道を切り開くことができました。また、高校時代に心を通わせた友人達が、今の自分にとってお金では買うことのできない貴重な財産となり、心の支えとなっております。

母校で学んだことを経営や家庭に活かして、今後とも修練していきたいと考えております。

最後になりましたが、岡山白陵の益々のご発展と皆さまのご健勝を祈念申し上げます。

町屋やきにく

密陽家

みらんちぶ

(増田智久 第15期生)

**岡山白陵OBの方は1ドリンクサービス致しますので
当店スタッフまでお申し付けください。**

住所：〒700-0026 岡山市北区奉還町1丁目13-14-2 (岡山駅西口より徒歩5分)
TEL：086-898-1129
営業時間：17:30~23:00 (火~金) / 17:00~23:00 (土、日)
定休日：月曜日 (祝日の場合は営業致します)
総席数：40席 宴会最大人数：40人 (着席時) 貸切可能人数：30~40名
駐車場：無 (近隣にコインパーキングがあります)
WEB：http://www.mirantipu.com

フェイスブックも随時更新中!

風情漂う町屋で心はんなり神戸牛を焼肉様式で味わう

竹内 麻子 (22期生)

ASAKO TAKEUCHI



岡山白陵22期生の竹内麻子と申します。卒業して早13年、今は岡山市内で小さな司法書士事務所を営んでいます。

司法書士と言うと、法務局において不動産や会社・法人の登記手続きを行うのが主な仕事として世間的には認知されていますが、他にも簡易裁判所での訴訟や、成年後見制度、そして私個人としては中小企業の法務支援という分野に力を入れてやっております。

何はともあれ自営業。ツライ時も多々ありますが、自由気ままにできるのが良いところでしょうか。

私にとって、熊山に通った6年間は非常に平和でのんびりとした時代でした。当時はもしかしたら、宿題が大変だったり柔道の授業から逃げたかったり、色々あったのかもしれませんが、それでも、ノドモトスギレバ何とやら。こんな私が伸び伸びと学校生活を送ることができたのも、ひとえに寛容な先生方と優しい同窓生のみなさんのお陰と感謝しております。

卒業以来、めっきり母校にお邪魔することもなくなってしまいました。今年、新校舎が落成したとの輝かしいニュースも耳に入っていました。そろそろ懐かしい場所に足を向けてみようかと思いを馳せつつ、この原稿を閉じさせていただこうと思います。

母校便り

24期生の馬場さんが文化発表会の際、後輩のために講演をしてくださいました。



馬場小百合さん (24期生)



古事記編纂1300年の記念すべき今年、鳥根の神話博、京都国立博物館の出雲展など、各地で記念行事が盛んに行われました。岡山白陵でも去る9月6日、図書部主催、24期生馬場小百合さんによる講演会が開催されました。

馬場さんは、東京大学進学後、古事記の大家である神野志隆光先生に学ばれました。古事記を専門分野とし、現在は東京大学大学院で博士論文執筆のために忙しい毎日を送ってられます。

講演は「『古事記』を読むこと、研究すること」と題して行われました。豊富な資料や時には漫画も用いながら専門の古事記をわかりやすくもといてくださいました。黄泉の国にまつわる最先端の研究にもふれられた、充実した講演会でした。文化の秋の始まりにふさわしい、豊かなひとときとなりました。

岡山白陵の更なる飛翔を、ご支援ください!!

校舎建替 寄付金のお願い

この寄付金募集は、母校を支援するため岡山白陵高校同窓会が同窓会員を対象として行い、会員からの寄付をまとめて岡山白陵中学校・岡山白陵高等学校の校舎新築建て替え資金として学校法人三木学園へ寄付します。

募金 1口 **10,000円**

できましたら複数口のご協力をお願いいたします。
1口未満でもありがたくお受けします。

申込方法

お振込みの際には、同封の振込用紙をお使い
いただくか、郵便局から次の口座へお振込み
下さい。

口座番号：01270-8-13591
加入者名：岡山白陵同窓会

※なお、このお願いは平成23年度中に既にご寄付くださった方へ再度のお願いをするものではありません。

※この寄付金は税法上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。
平成23年度税制改革により、学校法人三木学園に対する寄付金が「税額控除方式」の対象となることが認められました。これにより、従来の「所得税控除方式」(B)が「税額控除方式」(A)かのどちらか一方を寄付者が選択して所得税の控除を受けることができます。

A 税額控除方式

寄付金控除額 = (税額控除対象寄付金 - 2千円) × 40%

※税率に関係なく所得税額から直接控除するため、既存の所得税控除と比較してほとんどの寄付について減税効果が大きくなります。

※年間の寄付金額の合計額が年間総所得の40%を超える場合は、40%相当額が限度となります。

※寄付金控除額は所得税額の25%が限度となります。

B 所得税控除方式

所得税額 = (課税所得 - ①寄付金控除額) × 税率(5%~40%)

①寄付金控除額 = (特定公益増進法人への寄付金額 - 2千円)

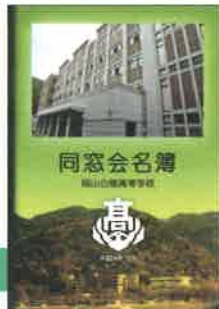
※年間の寄付金の合計額が年間所得の40%を超える場合は、40%相当額が限度となります。

※個人の所得金額によって税率は異なります。

※寄付金控除を受ける手続きは寄付された翌年の確定申告で行いますが、その際、領収書と寄付金控除に係る証明書(写)が必要です。これらが必要な方はゆうちょ銀行払込取扱票の通信欄に「証明書必要」とお書き添えください。

会員名簿発刊

同窓会では、平成24年3月から4年に1度改訂をしております、会員名簿の作成の為調査を進めてまいりました。ようやく11月に完成いたしました。調査につきましては、皆様方のご協力を頂きまして誠にありがとうございました。また、名簿をご購入、広告のご協賛を下さいました皆様方につきまして重ねてお礼申し上げます。会員名簿をご希望の方は、下記同窓会事務局か、管理を委託しております小野高速印刷(株)までご連絡ください。なお、ご購入の際にはご本人確認をさせていただきますのでご了承ください。



名簿代金: 3,500円(消費税込、送料別途)

データに関するお問い合わせ

TEL: 0120-66-7754(平日9:00~16:00)
FAX: 0120-81-2299(24時間受付)
E-mail: meibo@dousou.info

ご注意!

同窓会とは関係のない業者から名簿発刊の案内があったと報告がございます。文面には「同窓会とは関係ございませんが・・・」などと書き込まれているようですが、十分ご注意の上ご対応ください。同窓会は、**小野高速印刷(株)のみ**へ委託しております。

原稿募集

ご紹介
下さい!

事務局では、今後も会員の方々のいろいろな情報を掲載し、会員相互の情報交換の場にしていきます。

- ・同期会、クラス会、OB会の報告
- ・旅行記、修学旅行、入学式、高校時代の思い出
- ・卒業生のご活躍の方々、お店の紹介
- ・同期会等の開催告知 etc...



まずは、同窓会事務局まで、郵送又はメールでお寄せ下さい。尚、紙面の都合上、掲載できない場合もございますので、ご了承下さい。

岡山白陵同窓会

〒709-0715 岡山県赤磐市勢力588 TEL: 086-995-1255

学校ホームページ <http://www.okahaku.ed.jp/> 同窓会ホームページ <http://www.okahaku.ed.jp/dk>

E-mail dousoukai@okahaku.ed.jp

編集

Editor's note

後記

ついに新校舎での授業が始まりました。後輩たちがビカビカの校舎で元気いっぱい学校生活を送っています。反面、また一つ、思い出深い場所がなくなったというさみしさがあります。雨漏りしていた天井も懐かしい思い出となってしまいました。しかし、学校での主役は現在通っている生徒たちですので、この生徒たちが先輩方に負けなくらい、新たな素晴らしい歴史をつくってくれると期待しています。

さて、今回の会報も、多くの同窓生の協力を得て完成させることができました。これからも多くの同窓生の活躍を紹介したいと思っていますので、自薦・他薦問わず、良い話題がありましたら、お知らせください。校舎も新しくなりましたし、ぜひ学校にも立ち寄って、久しぶりに恩師の先生方と語り合っただけならと思います。